

# 越生駅東口開設事業

—No.44 越生町—

## 【事業の目的】

本町では、町の玄関口である越生駅を中心に、活力あるまちを推進するため、公共交通の利便性向上と中心市街地の活性化に向け、駅の東西を結ぶ自由通路を整備しています。

これにより、土地区画整理で整備された東側地域の活性化を図るとともに、西側の旧市街地との一体化を図ることで、駅を中心としたコンパクトシティの形成を目的としています。

## 【事業の内容】

越生駅の既存跨線橋とエレベーター跨線橋を東側にそれぞれ延長し、現在ある駅前広場も全面的な改修を行い、東口として整備します。また、既存駅舎を廃止し、JR八高線、東武越生線それぞれのホーム上に改札口を整備することで、自由通路による市街地連絡機能を強化し、駅周辺の回遊性・利便性・アクセス性を高め中心市街地の活性化が図られ、土地利用の促進及び定住人口の増加に寄与します。

## 【事業年度】

平成28年度～平成30年度

## 【予算額(千円)】

926,765千円(平成28年～平成30年度)

うち、592,140千円(平成30年度)

## 【財源】

社会資本整備総合交付金(国)、みんなに親しまれる駅づくり事業補助金(県)、一般財源(町)、地方債、ふるさと創造貸付金(県)

## 【事業実施に至った背景・経緯】

平成元年に越生駅の東側地区約30haの土地区画整理事業が完了し、その地域の住民や土地を求めた方にとって、越生駅の東口開設は長年の悲願でした。

当初は、橋上駅舎整備の計画を検討していましたが、JR八高線と東武越生線の2路線が乗り入れており、2つの鉄道事業者に係る工事であることや、鉄道施設に関する基準の違いもあり、協議は非常に難航し進捗しませんでした。

しかし、平成25年に、エレベーターなどのバリアフリー化の整備を行い、その後、鉄道事業者の協力を得て基本計画を策定しました。その計画では、橋上駅舎ではなく、現在の計画である各鉄道のホーム上に駅舎を設置することで、ようやく鉄道事業者からの合意が得られ、平成28年に基本協定を締結することができました。

## 【事業のPRポイント】

現在は、土地区画整理事業を実施した東側地区と西側の旧市街地は、鉄道路線により分断されております。自由通路を整備することにより、東西のネットワークを形成するとともに、中心市街地のコンパクト化が図られます。

また、東口を開設することにより、駅周辺の住環境の整備、中心市街地の活性化の推進や土地利用の促進、定住人口の増加、「ハイキングのまち」を推奨するための拠点整備に寄与し、「活力あるおごせ」の創出を図ります。

中心市街地のコンパクト化について、平成30年3月に「越生町立地適正化計画」を策定し、居住機能や都市機能の誘導を図ることにより、町民が安心して住み続けられる、また、町外の若い世代などの来訪者にとって移住・定住のきっかけとなる、コンパクトなまちづくりを目指します。

## 【事業実績・成果・今後の展開】

自由通路を開設することにより、東西のネットワークが形成されるとともに、駅周辺の土地利用の活性化が図られます。また、東口の駅前広場の全面的な改修を行い、新たな公共交通の乗り入れを促進し、また、バリアフリー対応の公衆用トイレを設置することにより駅の利便性の向上を図ります。

さらには、旧駅舎を利用したおもてなし拠点としての利用などを検討し、平成31年度中の整備を予定しております。

## 【参考資料】

越生駅東口のイメージ図



〔 連絡先 〕

まちづくり整備課 都市計画担当 049(292)3121(内線152)